

スタンダードチャータード PLC

2012 年度中間期業績予想

2012 年 7 月 2 日

(これは、ロンドンにて 6 月 27 日付で配信したものを、日本の皆様に向けて抄訳したものです)

スタンダードチャータード PLC (その子会社を含む。以下、「当行グループ」または「グループ」と称します) は、2012 年度 6 月中間期会計報告に先立ち、アナリストおよび投資家の皆様を対象とした説明会を予定しておりますが、当報告書においては当該説明会にてカバーされる詳細について述べさせていただきます。

当行グループ最高経営責任者であるピーター・サンズのコメントは、次のとおりです。

「世界経済の減速・変動の中にあつて、スタンダードチャータードは力強い成長を維持しています。多くの事業分野・地域にわたって良好な成長基調にあり、お客様への金融面でのサポートや融資をさらに強化することで市場シェアを高めています。この成長状態は継続しており、当行が事業展開するアジア・アフリカ・中東市場には素晴らしい事業機会が存在しています。」

以下、比較数値については、特に明記のない限り、すべて年次ベースで作成されております。

グループ

当行は今年度もグループ全体として好調なスタートを切り、上半期の収益は前年同期比一桁台後半の伸びを見込んでいます。一方、事業展開地域の通貨に対する継続的な米ドル高が、それらの地域における収益の伸びに影響を及ぼしています。この現地通貨安により、グループ全体の収益は 2% 強引き下げられる見込みで、特にインドルピーでその傾向が顕著となっています。

好業績の実現は当行の市場の多様性からもたらされており、この、多くの地域での好業績により、一部の地域での軟調な業績を十分に相殺することができています。上半期は中国・インドネシア・マレーシア・アフリカ・米州・欧州諸国(英国を含む)といった広範な市場で二桁成長を予想しており、一方香港の予想はほぼ二桁成長となっています。シンガポールは好調な収益成長基調を維持しており、優れたコスト管理と良好な与信実績とあいまって、増益を確かなものにしていきます。

韓国では、約 7,000 万米ドルの不動産売却益もあり、上半期に二桁成長が見込まれています。この要因を除外した場合の伸びは、一桁台前半です。他の地域で計上されるネットワーク収入は、引き続き二桁成長が見込まれています。コスト面からの圧力は継続しているものの、韓国では 2011 年度の早期退職プログラムに関連したコスト削減を実施しています。

インドの上半期収益は、米ドルに対するルピー安の影響で引き続き伸び悩んでいます。固定通貨換算ベースでは上半期の収益は一桁台半ばの成長が予想されます。ネットワーク収入は好調で二桁の伸びが続い

ています。

主に両事業部門(コンシューマーバンキング部門・ホールセールバンキング部門)で負債サイドの利鞘が拡大していることから、グループ全体の純金利収入は伸びを示しました。2012年度上半期を前年度下半期と比較すると、住宅ローン事業の利鞘縮小が予想されます。一方でトレードアセットの利鞘は拡大し、またコンシューマーバンキング部門では、利鞘の大きい無担保事業へシフトする段階的な商品構成の変更による効果が現れてきています。

引き続きコストを厳格に管理した結果、上半期のグループの収益成長はコスト増加率を上回る見込みです。5月末現在の従業員数は2011年末からほとんど変化はありませんでした。

当行は、第1四半期の中間経営ステートメントにおいて、予算水準を上回る加速したペースで投資を実施したと発表しました。通年の収益予想とコスト増加の見込みを考慮した上で、当行は再び投資を増加させる意向です。

引当金が両事業部門において、前年同期と比べてほぼ同額に増加した結果、グループのクレジットコストは予想どおり増加しました。両事業部門のアセットクオリティ(資産の質)は依然として良好ですが、外部環境は常に注意深く見守っております。

グループの税引き前利益は、収益成長予想、厳格なコスト管理およびポートフォリオの良好な与信実績を踏まえ、前年同期比一桁台後半の伸びを予想しています。

バランスシートの資産・負債項目ともに規律ある伸びが続き、いずれも2011年末から一桁成長を示しています。グループのリスク加重資産(RWA)は、両事業部門での資産の拡大ならびに利鞘の小さい住宅ローン資産を、利鞘の大きい無担保コンシューマーバンキング事業にシフトさせたことを予想通り反映し、堅調に増加しています。

当行グループは、ポルトガル・イタリア・アイルランド・ギリシャ・スペインのソブリン債への直接投資はありません。またこれらの国々への直接投資額の合計がグループ資産に占める割合は、0.5%以下と非常に低いものとなっております。

当行グループは高い流動性を維持し、預貸率(A/D率)は高く、潤沢な資本を保持しています。当行グループは保守的な資金調達構造を維持しており、今後数年間での満期予定の貸出案件へのリファイナンスは、極めて限定されたものとなっております。引き続きインターバンク市場においても、多額の資金放出ポジションを維持しています。

コンシューマーバンキング部門

コンシューマーバンキング部門の上半期の収益成長は、前年同期比で一桁台半ばになることが予想され

ています。香港と韓国では住宅ローン事業の不振で収益が鈍化し、またインドでは為替面でマイナスの影響を受け、台湾ではウェルスマネジメント事業が低迷し、これらがコンシューマーバンキング部門の業績に影響を及ぼしています。

預金収益は引き続き好調な伸びを見せており、年末以降の預金総額が堅調に増加していることや利幅が改善したことを反映して、二桁成長を達成する見込みです。

クレジットカード事業・個人向け融資事業は引き続き好調で、二桁の伸びが予想されます。引き続きこうした無担保事業を選別的に増加させており、シンガポール・韓国・中国・マレーシアで二桁の収益の伸びを予想しています。

ウェルスマネジメント事業には、引き続き欧州の債務危機がもたらした不確実性が影響を及ぼしており、収益は前年同期比で若干減少する見込みです。住宅ローン事業は、残高が年末からほぼ変わらず利鞘の下げ圧力は続いていることから、収益は前年比で減少が予想されます。

中小企業向け(SME)融資事業は引き続き堅調で、融資・トレードファイナンス・キャッシュマネジメント事業に牽引されて、上半期は一桁台後半の成長が予想されます。地域別では香港・中国・マレーシア・インドネシア・アフリカの全てにおいて二桁成長が予想されます。

コストは一桁台後半の増加が予想され、これは2011年度上半期に計上した仕組み債の引当に対する経常外費用が生じたことによるものです。この要因を除外した場合のコストの増加は一桁台半ばと予想されます。

コンシューマーバンキング部門のポートフォリオのクレジットクオリティは引き続き良好で、その先行指標も概ね安定しています。上半期に、評価損を抱えたポートフォリオを、2011年度の平均とほぼ同額分売却したことが、同部門のクレジットコストにはプラスの影響となりました。基礎的クレジットコストは、2011年度下半期とほぼ横ばいの水準となる見込みです。

コンシューマーバンキング部門の戦略的な変革プログラムは順調に進展している一方、前述のようなウェルスマネジメント事業の減速、前年の一時的なコスト増、クレジットコストの増加を踏まえると、上半期の営業利益は二桁の減少が予想されます。

昨年末以降、バランスシートは資産・負債項目ともに増加しています。負債サイドの利鞘は増加し、資産サイドの利鞘は前年度下半期からほぼ横ばいの推移となっています。

ホールセールバンキング部門

ホールセールバンキング部門の上半期収益は、前年同期比でほぼ二桁の成長を予想しています。

顧客収益が引き続き総収益の8割強を占めており、前年同期比で一桁台後半の成長が見込まれます。

これまでと同様、商業銀行業務、つまりキャッシュマネジメント、トレードファイナンスおよび付随する為替業務はホールセールバンキング部門の中核的事業であり、上半期に力強い業績を達成しました。

トレードファイナンスとキャッシュマネジメントは、利鞘が回復し平均残高も二桁の伸び率で拡大したことを受け、いずれも前年比二桁の力強い収益成長が予想されます。トランザクションバンキング事業は香港・シンガポール・台湾・アフリカにおいてとりわけ大きな伸びを見込んでいます。

コーポレートファイナンス事業は、商業銀行業務における取引関係を基礎として好調に推移し、収益の伸びは前年同期比で一桁台半ばが予想されます。当行の優れたフランチャイズによって引き続き数多くの案件獲得が見込まれ、顧客取引は件数・金額ともに過去最高レベルとなっています。ただし、マクロ経済の現状を踏まえれば、取引実行リスクが存在するのも明らかです。

フィナンシャルマーケット事業の顧客収益は一桁台半ばの成長見込みです。為替関連は取引量の伸び悩みから不振ではあるものの、金利関連商品取引は高い伸びを続けています。

自己取引の収益成長は二桁の見込みで、これにはALMがポートフォリオ拡大と利回り回復にともなって成長したことと、資産評価を主な要因としてプリンシパルファイナンス事業が好調だったことが貢献しました。

ホールセールバンキング部門のコストは、適切に管理されています。前年同期との比較では一桁台半ばの増加を見込んでいます。

ホールセールバンキング部門のクレジットコストは数週間後に確定すると思われますが、前年同期と比べて数千万米ドル台後半程度増加すると予想されます。増加分は、その他の減損に関わる費用負担の減少により、ある程度相殺されます。当行は対外クレジット環境を引き続き注視していますが、現状のクレジット・ポートフォリオは良好です。全体的なアセットクオリティは引き続き健全で、年末以降、重大な問題のあるエクスポージャーは新たに発生していません。

最後に

当行グループは今年度上半期に良好な業績を達成できる見込みであり、またその事業基盤は大変強固であります。流動性が高く、資本が潤沢であり、リスクとコストを厳格に把握しています。成長基調を維持し、投資を加速しており、今年度の財務目標達成に向け順調に進んでいます。今後も収益を拡大し、多数の商品・地域において市場シェアを獲得してまいります。

詳細につきましては、以下の担当者へご連絡ください。

James Hopkinson, Head of Investor Relations +44 (0)20 7885 7151

Ashia Razzaq, Head of Investor Relations, Asia +852 2820 3958

Jon Tracey, Head of Media Relations +44 (0)20 7885 7613

日本語でのお問い合わせは下記にて承ります。

スタンダードチャータード銀行

コーポレート・アフェアーズ部

Tel: 03-5511-1245 / Fax: 03-5511-9311

Ca.Japan@sc.com

本資料に記載の「今後の見通し」については、現時点での予測・意見、もしくは将来予測されるイベントに基づき作成されたもので、その適時性、実現性を保証するものではありません。また、本資料には、予測、目標、見通し、傾向、計画、目標、評価、意見、可能性他、それに類似する表現が使用されていますが、このような表現を含む各種見解・見通しについては、今後の経済動向や市場環境等の変化に対応して当行の業績、計画、目標を変更する場合もあり、その正確性もしくは完全性に関していかなる責任も負わないものとします。また、本資料は、信頼できるとされる過去または現在の情報に基づき作成されていますが、将来における結果を示唆するものないことをご了解ください。更に、当資料中のコメントは作成日現在の当行の判断を示したものであり、将来のイベントや情報により内容に変更がある場合にも、当行はそれに対する責任を負わないものとします。